

## 社会部会

### <県研究主題>

社会的な見方や考え方を養い、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う学習指導と評価の工夫・改善

### 提案1

提案者 田中 聖二 (横浜地区)

### <研究主題>

社会的な思考力・判断力・表現力を育てる指導と評価の在り方 ～子どもの問題意識を大切にし、提示する資料や提示の仕方を工夫して、子どもの見方や考え方を深める～

## 1 提案内容

単元名 「源頼朝が目指した新しい時代」

### (1) 研究内容

- ① 子どもたちが問題意識を持ち、考えてみたいと思えるような授業構成を考える。
- ② 子どもの実態や思考に合わせて、資料を提示する。

### (2) 実践の概要

・単元の流れ【ねらいと評価 ( ) 内は評価の観点】

- |           |   |
|-----------|---|
| 1時間目のねらい  | 武士の起こりを調べ、武士がどのように力を持つようになったのか問題意識をもつようにする。(思考・判断・表現①)      |
| 2時間目のねらい  | 武士という身分がどのように生まれたのかを意欲的に調べたり、発表したりできるようにする。(関心・意欲・態度①)      |
| 3時間目のねらい  | 平清盛がどのように力をつけていったのか調べ、調べたことをノートにまとめることができるようにする。(技能①)       |
| 4時間目のねらい  | 源頼朝がどのように平氏を倒し、鎌倉幕府を開いたのかを理解できるようにする。(知識・理解①)               |
| 56時間目のねらい | 頼朝が目指した武士による政治を考えるようにする。<br>(思考・判断・表現②)                     |
| 7時間目のねらい  | 武士のくらしの様子から、武士が守りたかったものについて、自分の考えをもつことができるようにする。(思考・判断・表現②) |
| 8時間目のねらい  | 元との戦いの際の幕府の対応について調べ、幕府の力が全国に広まっていることについて理解できるようにする。(知識・理解②) |

### (3) 成果と課題

- ① 子どもたちが問題意識を持ち、考えてみたいと思えるような授業構成を考える。

(成果) 頼朝と義経の関係を取り上げた。「義経は活躍したのに鎌倉に入れてもらえなかった」「兄弟なのにおかしい」といった子どもの思いや考えと矛盾する事実を提示することによって、どの子も興味・関心をもち、学習の中で考えようとするきっかけになったと考える。また、授業後にも「義経記」をもとに語る子どもの姿が見られた。授業が終わっても考えを深めようとする子がいたということは、子どもの中に問題意識が生まれていたと考える。

(課題) 兄弟関係という子どもには考えやすい内容ではあったが、逆に「ひどい」「かわ

いそう」という感情面から抜けることが難しいということも感じた。義経の活躍を調べたことや頼朝の功績についての理解が少なかったことが原因と考える。

② 子どもの実態や思考に合わせて、資料を提示する。

(成果) 腰越状、下知状の順に資料を提示した。「官位」についての理解が下知状を読み解く時に必要と考えたからである。子どもの考えをみとり、実態を理解した上で資料を提示することが重要であると改めて感じた。

(課題) 下知状の提示後、ねらいに迫る発言が多く見られた。しかし、天皇から位をもらうことについての頼朝の考えを全員が理解していたとは言い難い。言葉の資料だけでなく図式化した資料などを用意することも必要だと感じた。

(4) まとめ

- ・子どもが矛盾を感じるような事象、考えやすい事象を取り上げることが、学習意欲を高めることにつながった。
- ・資料を出すタイミングやその内容を吟味することが大切である。
- ・歴史事象を取り上げる際に、心情を考えることのメリット・デメリットが明らかになった。

2 協議内容

- (1) 武士の起こりをどのように指導したか。→前時代の比較を大切にした。位をもらった朝廷の中で生きた平氏と勝手に朝廷から位をもらわない頼朝の違いを見せたかった。
- (2) 授業の最後にどのように子どもに記述を求めているか。→感想というと自由に書いてしまう。わかったことは書かせるが、それだけでは次につながらない。考えが変わったことなどを書くように指導している。
- (3) 頼朝と義経の関係のずれが、子どもたちに無理のないずれでよかった。自分との関係で離れすぎず、簡単すぎず、程よい問題であったと感じる。
- (4) 腰越状と下知状の二つの資料、タイミングはどうだったのか。子どもによって必要感異なる。ほかの子と共有するための問い返しなどは行ったのか。  
→全体に対して教師が問い返すことで、問題の共有がはかれたと感じ、資料を提示した。

3 助言

(1) 授業構成について

鎌倉学習8時間のうち2時間、頼朝と義経の関係を扱った。子どもの心情面から生まれる問題意識を大切に、子どもの心をゆさぶりながら学習を組み立てた。子どもたちのノート記述から自分なりに解釈し、理解していく姿が読み取れる。

(2) 資料提示について

社会科における言語活動に資料の読み取りという活動がある。そして、読み取ったことを解釈し、説明する。こうした活動をうまく組み合わせていくことで、その子なりの考えがまとまっていく。本実践では、子どもの考えをみとり、実態に応じて資料提示の工夫をしたことで、読み取り・解釈・説明といった活動が生まれた。

(3) 思考力・判断力・表現力について

今回の実践では、武士の世の中を作るということについて、資料から見出したものを吟味し、関連付け、自分なりに「私はこう思う」と判断している。子どもたちが思考し、判断している活動が、頼朝が武士の世の中を作りたいんだということにつながっている点に良さがある。

## &lt;研究主題&gt;

子どもが主体的に考える単元構成の工夫  
～「森林のはたらきと自然災害」の学習を通して～

## 1 提案内容

単元名 「森林のはたらきと自然災害」(5年)

## (1) 研究テーマ・研究内容について

社会科において、子どもたちに「公民的資質の育成」、すなわち「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う」ことが重要であり、子ども自身が社会科で学んだことを実社会・実生活に活用し、見出した問題を「自分ごと」として受け止め、見つめなおすことが大切と考えた。子どもの思いを大切に教材研究や単元構成を行い、問題解決学習を重視しながら学習展開をしていくことで、子どもが「自分ごと」として事象を捉えられると仮定し、本研究主題を設定した。

## (2) 主題達成のための具体的な手立て

- ① 地域素材の教材化・活用: 「自分ごと」の意識を持たせる。
- ② 充実した指導計画の作成: 知識の構造図、単元構想図を作成し、計画的指導をする。
- ③ 問題解決的な学習の推進: 教師主導ではなく、子ども中心の学習。
- ④ 言語活動の充実: 「子ども中心の授業」「子ども自身のかかわり」を重視する。

## (3) 成果と課題

## [成果]

- ・地域素材を活用したのは、興味・関心を抱かせるのに有効だった。
- ・知識の構造図と単元構想図を作成し、教師が単元の流れやつながりを理解して学習を進められた。
- ・問題解決学習を推進したことで、子どもが主体的に学ぶ風土ができた。
- ・子ども同士のコミュニケーションだけでなく、資料の見方やまとめという社会科の特性としての言語活動について深めていくことができた。

## [課題]

- ・知識の構造図、単元構想図の流れにこだわり、柔軟さに欠けた面もあった。
- ・余裕を持った年間計画、単元計画ができなかった。
- ・地域人材を次年度以降にも活用できるような、学校での体制づくりが必要。

## (4) まとめ

「主体的な学び」のために、学習材、単元構成の工夫を行い、子どもに問題意識を持たせ「自分ごと」として考えるようにしていきたい。また単元をつらぬく問いを大切に学習展開で、子どもの学びを発信できるようにしていきたい。

## 2 協議内容 協議の柱「学習意欲を高める学習指導の在り方」

## (1) 単元計画をつらぬく上で、子どもの問題意識を持続させる工夫について。

→学校が土砂災害危険区域に指定されており、身近な問題として捉えられていた。

## (2) 5年なので、「地域」から「我が国の国土」という広がりがあった方がよかった。

## (3) 「大震災で公園の樹木が火災の広がりを防いだ」という事例を扱ったことがある。

- (4) ハザードマップを作った際の苦勞と、子どものまとめについて  
→授業時間内に完成できなかった。学校全体へ知らせたいという意識が芽生えた。
- (5) 単元の初めに見せた土砂災害の写真は森林の影響で発生したものなのか。  
→堤防決壊による。言葉で補足。森林のは個人宅が被害を受けたので問題があった。
- (6) 単元計画では「自然災害」という広い視点の言葉を使っていたが意図があったか。  
→本単元の前に釜石の防災について学習していたので、つながりを意識していた。
- (7) ノートに、「何が分かったのか」、「思い」等を書かせる指導はどうしているのか。  
→コメントを書いて指導をしているが、今後の課題と捉えている。
- (8) グループ活動をどのように、どの段階で取り入れて言語活動の充実を図ったか。  
→早くから、ざっくばらんに話しあう中で自分の考えを見つけさせるようにしていた。
- (9) 指導計画との乖離が生まれたらどうするか。子どもの社会参画意識を高める工夫は。  
→課題として捉えている。

### 3 まとめ

#### (1) 助言

##### ① 地域素材の教材化

全国的に実践事例が少ないので、実践したことに価値があるのではないかと。学習指導要領における地域素材の教材化の記載にも則していた。ただし、各学年の目標に沿っていることを確認した上で地域素材を活用する必要がある。

##### ② 単元構想図・知識の構造図の活用

教師の思いが一枚にまとめられていた。元になる知識の構造図を作成することで何を学ばせるのか、考えるのかを明確に意識しながら指導できていた。単元の流れが計画通りに進むとは限らないので、子どもの思考に合わせた柔軟性が必要である。

##### ③ 言語活動の充実

指導のねらいと活動が不明確な場合が多い。言語活動はねらいを達成するための手段である。思考力・判断力を育てる活動の位置付けが課題となっている。

### 4 グループ協議

「学習意欲を高める学習指導・教材の在り方」

- (1) 資料の提示は子どもの実態に合わせる。教師が見通しを持って導いていく。
- (2) 教材の提示の仕方には教師の意図があり、出会わせるタイミングを大切にす。価値ある教材や活動を地域から見つけていく。子どもの疑問を練り上げて単元を通す課題を作っていく。
- (3) 経験や知識と矛盾する事柄に出会った時に問題意識が生まれる。学習のねらいに繋がっていることが教材化に必要である。何を学習させるのかを明確にするために知識の構造図を活用し学習内容を明確化する事も必要。
- (4) 調べ方を指導して、その根拠を学級で共有させたい。地域素材を扱う際には人と出会わせることが必要で、どんな人と出会わせるかが学習意欲の向上につながる。
- (5) 午前の発表について：資料の選択、出し方が子どもの思考に沿っていたので学習意欲を高められていたのではないかと。また資料提示のタイミングも重要である。  
午後の発表について：地域から国土に内容を発展することが必要ではないかと。単元構想図・知識の構造図は教師側の押さえない内容を明確にしておくために必要である。